

現在時制と現在進行形。

(1) 現在時制の表す意味。

時制で一番厄介なのは、現在時制です。なぜなら

- ① 過去時制は「過去の状態」「過去の動作(行為)、習慣」等を表すのみ。
- ② 未来時制も、未来に予測される事柄について述べるのみ。

ところが現在時制は、「現在」のことだけをいっているわけではないからです。例文で説明しましょう。

(ex) I see a big signboard over there. あそこに大きな看板が見えます
 I hear someone calling my name.
 誰かが私の名前を読んでいるのが聞こえる
 What do you have in your hand? 手に何を持っています
 He is out now. 彼は今外に出ています

上の例文は、まさに「現在の状態」を述べていますから問題ないでしょう。

☞ 現在時制で上例のような「現在の状態」を表すのは、後述するような状態動詞が多い。

ところが以下の英文はどうでしょうか。

(ex) School starts in April in Japan. 日本では学校は4月から始まる
 The earth moves round the sun. 地球は太陽の周りを回っている

上の英文はいずれも現在時制で書かれていますが、日本の制度が変わらない限り、学校は4月開校ですし、地球が太陽の周りを回っているのは、今日に始まったことではありません。つまり昨日(過去)も今日(現在)も明日(未来)も、これらは繰り返される(変化がない安定した)内容ですよね。

このように現在時制は、「過去から始まって現在、そして今後(未来)においても起こるであろう(つまり習慣的)動作・状態」を表しうるのです。一言でいうと現在時制の基本イメージは、現在を中心として、過去・未来においても、

「繰り返し起こる」「(変化がなく)安定している」「確定的」

ということなのです。

(ex) He works for the bank. 彼はその銀行で働いている

上の英文では work が現在時制で用いられています。まさにそんな「習慣的動作(行為)」を表しているわけです。つまり「(現在を中心に、過去から未来に渡る習慣的な行為として)銀行で働いている」といっているのです。「昨日も働いていたし、明日も、その後も彼はその銀行で働くでしょう」ということを言っているのです。したがってたまたま今日はお休みで銀行に来てはいない、という場合でも使えます。では、「今、この時」に「働いている(真っ最中である)」という文字通り、現在行われている真っ最中の動作は何で表すのでしょうか？ それは現在進行形で表します。

(2)現在進行形の表す意味。

現在進行形は「(今現在)~している真っ最中だ」というのがその意味の基本ですね。ですから、「彼は今その銀行の中で働いている最中だ」は

(ex) He is working in the bank. ☞まさに「今」働いている最中!

と表現します。

進行形は裏を返せば、まさに「今(その場において)」働いているということでは使えないということにもなります。

このように、進行形というのは「過去やこの先はわからない(あるいは違う)が、とりあえず今この時(点)において、ある動作(現象)が行われている最中・途中であり、その動作(現象)は終了していない」ことを表す形なのです。

現在時制と現在進行形の用例をもう少しいくつか見ていくことにしましょう。

(ex) We live in Hiroshima prefecture. 私達は広島県に住んでいます

上の英文は、「過去においても、もちろん今も、そして今後も、ずっと広島に住んでいる(だろう)」ことを表しています。この英文を

→ We are living in Hiroshima prefecture.

と言えば、「この先のことはわからない(あるいは違う)が、とりあえず現時点で(一時的に)広島県に住んでいる」ということになります。

(ex) Our school stands on the hill. 私達の学校はその丘の上にある

Oil floats on water. 油は水に浮く

The sun is the center of the solar system. 太陽は太陽系の中心である

Time is money. 時は金なり

上の4つの英文も、これまでの説明が理解できれば、なぜ現在時制で書かれているのかもわかりますね。すべて「過去・現在・未来すべてに(習慣的に)繰り返される動作・起こる状態」を表しています(過去においても、そして今後(未来)においても、その学校はその丘から動かないだろうし、油は水の上に浮くだろうし、太陽は太陽系の中心であり続けるだろう。また時間が大切なのはいつの時代も同じ)。これがわかると以下の英文の意味も理解できるはずです。

① What do you do?

② What are you doing?

①は現在時制で書かれています。ということは「昨日も今日も明日も、習慣的な行為として何をしてるんですか?」という意味。つまり相手の身分・職業を聞く表現になるのです。したがって、それに対する答えは

I am a student[an office worker...].

I work for a bank.

等となります。

②の方は、現在進行形が使われているので「(現在、今この瞬間)何をしているのですか」という意味になります。したがってそれに対する答えは

I am studying.

I am cooking in the kitchen.

等となるわけです。

レクチャー2

進行形にできない動詞とは? 「状態動詞」と「動作動詞」の見極め法。

よく文法書には「進行形を作れるのは動作動詞のみで、状態動詞は進行形にできな

い」と書いてあり、以下のような例文が載っています。

- He **resembles** his father. 彼は彼の父親に似ている
- × He **is resembling** his father.

- I **know** him. 私は彼のことを知っている
- × I **am knowing** him.

「動作動詞」とは文字通り、「動作(行為・動き)」を表す動詞です。では「状態動詞」とはどんなもののことを指して言うのでしょうか。

文法書には「状態動詞」とは、「(目に見える)動きがない」「行為者の意思によって影響されない」動詞で、具体的には以下の3種類とあります。

①所有・存在(～ている・ある)を表す動詞 (下線を引いた語は類出)

belong to 「～に所属している」	consist of 「～からなっている」	be「ある、いる」	wear「身につけている」
possess 「所有している」	deserve「価値がある」	lie「ある」	have 「所有している」
contain 「含んでいる」	exist「存在している」	own「所有している」	resemble 「似ている」

②思考・心理(思う・信じる・好き・嫌いなど)を表す動詞

know「知っている」 understand「理解する」 think「思う」 like「好む」 hate「嫌う」等
believe「信じる」 remember「思い出す」 love「愛する」 dislike「嫌う」

③意思によって影響されない知覚(見る・聞くなど)を表す動詞

hear「耳にする」 see「目に入る」 taste「味がする」
smell「臭いがする」 taste「味がする」等

こんなふうにも書かれても、なかなか容易に覚えきれものではありませんね。そこでよりカンタンな覚え方を教えてあげましょう。それが以下です。

- ①動作動詞… (自分の意思で)短時間のうちに開始・中断・再開が繰り返せる動詞。
「開始(始まり)」と「終了(終わり)」がはっきりしている動詞。
- ②状態動詞… (自分の意思で)短時間のうちに開始・中断・再開が繰り返せない動詞。
「開始(始まり)」と「終了(終わり)」がはっきりしていない動詞。

こう考えると resemble(似ている)、know(知っている)が進行形を作れない理由もすぐ納得できます。「(誰かと)似ている」「～を知っている」という状態は、確かに「自分の意思で(短時間の間に)開始・中断・再開」することはできませんね。更に両者共に、特に「終了(終わり)」がはっきりしていません。

《もう一歩深く!! 進行形の特徴》

先程も説明したように、進行形とは「過去やこの先はわからない(あるいは違う)が、とりあえず今この時(点)において、ある動作を行っている最中・途中でありその動作は終了していない」ことを表す形と言える。

つまり進行形(を用いた英文)とは

- ①その動作・出来事は(開始から終了まで)短期間の(一時的な)ものであり、「始まりと終わり」がはっきりしている。
- ②(途中なのだから)まだその動作・出来事は終わっていない。
- ③(短期間なのだから)近いうちに終わる。

という特徴を持っているのである。

同じ「聞く」でも、hear は「自分では聞くつもりはないのに(つまり本人の意思とは無関係に)耳に入ってきた」という意味。これは「自分の意思で開始」したのではありません(つまり「状態動詞」)。ところが listen は「自分の意思で聞く」という意味。当然「自分の意思で開始」したわけですから「中断・再開」も自分の意思で可能です(つまり「動作動詞」)。したがって進行形にできるのです。

- I heard the doorbell.
- I was listening to the music.
- × I was hearing the doorbell.

これは「見る」という see と watch, look との関係にも当てはまります。つまり同じ「見る」でも see は進行形にできませんが、watch, look at は進行形にできます。その理由は、see は「自分では見るつもりはないのに(つまり本人の意思とは無関係に)目に入ってきた」という意味。これは「自分の意思で開始」したのではありません(つまり「状態動詞」)。ところが watch, look at は「自分の意思で見る」という意味(つまり「動作動詞」)。当然「自分の意思で開始」したわけですから「中断・再開」も自分の意思で可能です。したがって進行形にできるのです。

- I saw him.
- He is watching TV now.
- × I was seeing him.
- She is looking at the map now.

また see には「会う」という意味もあり、この意味の場合には(自らの意思で開始中断・再開)ができる、つまり「動作動詞」になるので進行形を作れます。

(ex) The President is seeing the deputation. 大統領は代表団に接見中です

また、have も『「持っている」という意味では進行形にできないが、「食べる」、あるいは使役動詞(～させる・してもらう)の場合には進行形にできる』と文法書には書いてありますが、その理由も同じです。たとえば「トラブルを持っている(抱えている)」といった場合、この状態を自らの意思で開始・中断・再開するのは不可能ですが、「食べる」という行為は、自らの意思でそれができる。だから後者は進行形にできるのです(使役動詞になる場合も進行形にできる理由も同じ)。

× I am having a trouble. ボクはトラブルを抱えている ☞haveとしなければならない。

○ They are having breakfast. 彼らは朝食をとっているところだ

○ The teacher was having his pupils write their names.

その先生は生徒達に名前を書かせていた

smell にしても「においがする」という意味では進行形にできませんが、「(自らの意志で)においをかぐ」という意味の場合、その行為は自らの意思で開始・中断・再開が可能なので進行形にできるのです。

○ Roses smells sweet. バラはよい香りがする

× Roses is smelling sweet.

○ I smelled something in the living room. 居間で何かのにおいがした

× I was smelling something in the living room.

○ I was smelling the flower. 僕はその鼻のにおいをかいでいた

そうすると、たとえば remain(～のままている)のような、普通は進行形で使われないような(状態)動詞をあえて進行形で使った場合、「(自らの意思で現時点で一時的に)～のままにしている(近いうちに終わる可能性が高い)」といったニュアンスを表すことになります。

(ex) He remained silent. 彼は黙ったままでいた

He was remaining silent. 彼は(故意に)黙ったままでいた

☞「状態動詞」を進行形であえて用いるのは、上例のような「一時的な状態」を表す場合と、「推移」を表す場合である。ただ「推移」を表す場合、下の例文のように(経過・推移を表すような)副詞(句・節)を伴うことが多い。

(ex) He is being a real bully again. 彼、また弱いものいじめをしている

※「一時的な状態」の例。上例のように"非難"を表すことが多い。

She is resembling her mother more and more these days.

彼女は最近ますます母親に似てきている

※「推移」の例。

レクチャー3

進行形の意外な用法。

進行形は「進行中の動作(～している最中だ)」という意味を基本的に表すのですが、これ以外の進行形の"意外な用法"もおさえておきましょう。つまり進行形は進行中の動作を表わす以外に、以下のような用法もあるのです。

①「確定的な近未来」の内容を表現できる。

會特に現在進行形の場合は、元来が「現在～している最中だ」という意味があるので、そこから転じて「現在既に計画、予定、又は手はずなりが進行中でそれによって(近未来に)予測されるであろう出来事」に関して使うことができる。このような現在進行形の用法は、近い未来の個人的な予定を表すことが多い。

(ex) We are getting married next April.

私たちは来年の四月に結婚する予定です

②進行形が(「～ばかりしていやがる」といった)話者の不満・いらだちを含めた「習慣的行為」を表わすことがある。

會この意味では、

always「いつも」、constantly「絶えず」、forever「永遠に」、all the time「いつも」

等、頻度の副詞を伴うことがほとんど。その場合、話者の不満、いらだち、当惑、不快等を表わしているとみていい。

(ex) My wife is always complaining about something.

妻はいつも何か愚痴をこぼしている 電夫の妻に対する不満の気持ちが込められている。

③状態動詞を進行形で用いると「(その時・場における)一時的な状態」を表せる。
また「be being+形容詞」で「(いつもと違って)今日はやけに～だ」「他とは違ってやけに～だ」という意味になる。

(ex) He is being bossy today. 彼は今日はまたやけに威張っているじゃない

④進行形が、期間を示す副詞句等を伴って「限られた期間内の習慣的な行動」を表すことがある。

(ex) You are taking music lesson these days.

君はこの頃音楽のレッスンを受けているそうだね

⚠上記の英文は「現在レッスンを受けている最中」であることを言っているのではない。

⑤進行形が「到達への接近」を表すことがある。

瞬間的に終わる動作(「die(死ぬ)」「drown(溺死する)」等)や、ある時点での達成(完了)を表す動詞(「stop(止まる)」等)が進行形になると、その動作・達成(完了)への接近、つまり「～しかかっている」「～しつつある」という意味を表す。

(ex) My mother is dying. 母は死に瀕している

The ship is stopping. 船は止まりかけている

⚠進行形がこのような意味を表す理由は、進行形は元々、

- ①「比較的短い期間内に起こること(行為・動作)を述べる」
- ②「その出来事(行為・動作)はまだ終わっていない(している最中・途中である)」

ということを示唆することにある。そう考えてみると、上例の be dying, be stopping はその「出来事(行為・動作)」がまだ終わっていない(その途中である)、つまり「死にかかっている」「止まりかけている」という意味になるのだ。

ちなみに「止まっている」という状態を表す表現は、以下のようになる。

The bus was standing. 外バスは止まっていた

=The bus was stopped.

後の例の stopped は自動詞の過去分詞で受身形ではない。

過去進行形と未来進行形。

(1)過去進行形

過去進行形は「過去の一時点における進行中の動作(～している最中・途中だった)」を表します。したがって、動作(を対)動詞が明確な過去の1時点を示す語句とセットで用いられた場合に過去進行形になると考えたらいいのです。

(ex) I was listening to the radio when my mother came into my room.

〔動作動詞〕

〔明確な過去の一時点〕

母が部屋に入ってきた時、私はラジオを聞いている最中だった

それからもちろん過去進行形は(現在進行形がそうだったように)、always, all the time, constantly 等の頻度の副詞と共に用いられると、話者のいらだち、不満を含めて過去の「習慣的(反復的)行為」を表すこともできます。

(ex) When young, he was always causing trouble for others

若いころは、彼はいつも他人に迷惑ばかりかけていたものだった

(2)未来進行形

逆に未来進行形は「未来の1時点における進行中の動作(～している最中・途中だろう)」を表します。

したがって、動作(を対)動詞が明確な未来の1時点を示す語句と用いられた場合に、未来進行形になることが多いとみればいいでしょう。

(ex) I'll be waiting for you at 3 o'clock.

〔動作動詞〕

〔明確な未来の一時点〕

明日の3時にはあなたをお待ちしていることでしょう

ただ、未来進行形には「(意志とは無関係の)未来の成り行き」を表す言い方もあります。

(ex) I'll be seeing him soon. 彼に近いうちに会うことになっている

I'll see him soon. だと、「近いうちに彼に会うつもりだ」という話し手の意志を表しますが、I'll be seeing him soon. にすると、「(私の意思に関係なく)近いうちに彼に会うことになるだろう」という成り行きを表すことになるのです。

未来表現。

(1)英語には「未来時制」という時制はない。

英語には未来時制などないという、「え？ will+do[原形]が未来時制なんじゃないんですか(>_<)??」と思う人も多いはずですが。しかし本来英語では、時制は動詞の形を変化させて表すものなのです(例えば過去時制なら動詞に ed をつける、といったように)。そうしてみると「will+do[原形]」というのは、助動詞の will の助けを借りて動詞が未来の内容を表しているに過ぎず(つまり動詞自体の語尾、即ち形が変わったわけではないので)、本当の意味での時制ではないのです。「will+do[原形]」は、あくまで助動詞表現なのです(学習者への説明の便宜上「未来時制」という言葉を用いているにすぎない)。

(2)未来の内容を表す様々な表現。

英語には「未来」を表す決まった形(時制)がないので、結局、未来の出来事を表す場合、(will+do[原形]を含め)さまざまな表現を使ってそれを表そうとします。だから、未来を表すのに

- ① will+do[原形]～
- ② be going to do[原形]～
- ③現在進行形
- ④現在時制
- ⑤ be about to do[原形]～ 「(今にも)～しようとするところだ」
=be on the point of doing～

(ex) I was about to leave the house, when the telephone rang.

家を出ようとしたらちょうどその時電話が鳴った

⚠be going toよりも改まった言い方で、差し迫った未来について用いる未来を表す副詞(tomorrow等)とは一緒に用いない。

⑥be to構文「～する予定になっている」

(ex) The meeting is to be held this evening.

その会合は今日の夕方に開催される予定になってる

The concert is to begin at seven.

コンサートは7時に始まる予定になっています

⚠be to構文が「未来」を表す場合、通例、未来の時を表す副詞を伴う。

など、いろんな表現が出てくるのです。これが未来表現だけいろんな言い方がある本当の理由なのです。

ただこれらの表現は、元来もっていた意味をひきずりながら未来の内容を表すので、同じ「未来」といってもそれぞれ微妙にニュアンスが異なってきます。

それぞれの未来表現のもつ意味合いをしっかりとマスターできれば、君ももう英語通といえるでしょう(^-^)

(3) will の表す未来。

助動詞の will は、本来「推測(〜だろう)」「意志(〜します・〜してあげますよ)」を表します。

このような will が未来を表すのに用いられるのは考えてみれば当然で、未来の出来事の多くは、現在にいる我々にとって「推測」したり「意志(図)」したりするものだからです。

(ex) It will be fine tomorrow. 明日は晴れるでしょう [推測]

I will do the work tomorrow. 明日僕がその仕事はしましょう [意志]

このように will が表す未来表現には「推測」「意志」が含意されることを覚えておきましょう。

(4) be going to が表す未来。

まず、be going to という言葉の成り立ちから考えてみましょう。言うまでもなく go は「行く」という意味。be going (to do〜)はその進行形なので「現在、(〜するために)向かって行っている途中(最中)である」という意味になります。そこから

「現在〜することを既に考えていて(意図をもっている)、それを将来において実現するつもりでいる」

「未来のある出来事を引き起こすであろう根拠(兆候)が現在すでに(ここに)ある」

といった意味合いが生まれるのです。

(ex) I am going to leave Joe. ジョーとは別れるつもりよ

上の英文は、ジョーと別れることを既に決めており(その意図を持っており)、そのようにするつもりだ、という意味が込められています。

① It will rain.

② It's going to rain.

おなじ「雨が降るだろう」でも、①の方はただ漠然と(客観的に)推測しているだけ。②の方は、現在すでに、雨を予感させるような兆候(例えば灰色雲のような)がそこにあるという意味合いが感じ取れます。

このように be going to は、will のような単なる「(客観的な)推測」「(その場の)意志」ではなく、「話し手の見込み・確信」を表すことになるのです。

「will と be going to の違い」のまとめ

(1) be going to ... ①前もって考えられていた意図(～することになっている)。

②話し手の(主観的)見込みや確信。

☞「既にその根拠となる兆候があって、近い将来にあることが起こりそうだ」というニュアンスが含まれる。

(2) will ... ①その場で生じた意図(～しよう)。

②客観的な未来。

(ex) A: The telephone is ringing. 電話が鳴っているわ

B: I'll get it. 僕が出るよ

×I'm going to get it.

☞主語が一人称(I, We)の場合には「前もって考えられていた意図」を表すのに will が用いられることがある。

She is going to be a good teacher.

彼女は良い教師になるだろう ☞話し手の確信を暗示。

It's going to snow any minute now. ☞話し手の確信を暗示。

(空模様などから)すぐにも雪になりそうだ

It will snow tomorrow.

明日は晴れるでしょう ☞客観的な言い方。

なお、条件節などを伴っている場合には will を用いる。be going to は使えない。

(ex) If it rains tomorrow, I will [×am going to] stay home.

もし明日雨が降れば、家にいます

(5)現在進行形(be+doing~)の表す未来。

特に現在進行形の場合は、元来が「(現在)~している最中だ」という意味があるので、そこから転じて「現在既に計画、予定、又は手はずなりが進行中で、それによって(近未来に)予測されるであろう出来事」に関して使うことができます。この現在進行形の用法は、近い未来の個人的な予定・計画を表すことが多いです。

(ex) We are getting married next April.

私たちは来年の四月に結婚する予定です

We're moving next month. 来月引っ越します

be going to も意図を表しますが、be doing~ を用いた方が、より強い意図をあらわします。

(ex) I am leaving Joe. ジョーとはきっぱり別れるつもりよ

(6)現在時制の表す未来。

その予定が、近い将来のことで、なおかつ変更の可能性がほとんどあり得ない確定的なものである場合に、(あたかもそれが既定の事実のようにみなして)現在時制で表すことがあります。ただし、未来を表す副詞を伴うのが普通です。

(ex) He makes his speech tomorrow. 彼は明日スピーチをする予定だ

この現在時制の用法は、団体などの予定・計画に対して使われることが多いです。

(ex) We leave Tokyo for Hiroshima tomorrow.

我々は明日、東京を発って広島に向かいます

レクチャー6

時・条件の副詞節中の時制のポイント。

「接続詞 S+V~」の形で、接続詞が「時」又は「条件」を表すものだった場合、

その節内の動詞(V)の時制は

- ①本来なら未来時制(will do~)で表すべき内容でも現在時制で代用する。
- ②本来なら未来完了(will have+p.p.~)で表すべき内容でも現在完了で代用する。

接続詞

S + V ☞先頭の接続詞が「時」「条件」なら、

(1)本来なら未来時制(will do~)で表すべき内容 ⇨ 現在時制で代用する

(2)本来なら未来完了(will have+p.p.~)で表すべき内容

[時]

[条件]

⇨ 現在完了で代用する

《「時」「条件」を表す副詞節を導く接続詞》

①「時」を表す副詞節をつくる接続詞

when	「～した時」	until	「～するまで」
as soon as	「～するとすぐに」	once	「いったん～すると」
the moment	「～するとすぐに」	after	「～した後で」
before	「～する前に」	by the time	「～する時までには」

②「条件」を表す副詞節をつくる接続詞

if	「もし～なら」	in case	「～の場合には」
as[so] long as	「～しさえすれば」	provided (that)	「もし～なら」
unless	「～しない限り」	=providing	

ただし、上記の接続詞のうちで注意を要するのが when と if です。なぜなら、when と if に限っては、それらが先頭にくっついているからといって即、上記のルールが当てはまるとは限らないからです。when の場合、以下の3種類の意味がありますが、このうち上記のルールが当てはまるのは3の「(～の)時」「(～し)たら」と訳せる when の場合のみ。それ以外は未来の内容は当然、未来時制で表します(ただ実際には形容詞節を導くwhenに関する問題はほとんどありません。おさえるべきは1.と3.のwhenの見極め)。

- when 1. [名詞節] : 「いつ」
2. [形容詞節]: 訳さない(関係副詞のwhen)
3. [副詞節] : 「(～の)時」「(～し)たら」

if の場合、以下の2種類の意味がありますが、このうち上記のルールが当てはまるのは、2の「もし～なら」と訳せる if の場合のみ。

if	1.[名詞節]	know 「分かる」	} <u>if S+V~</u> ☞このようなifは「~かどうか」と訳す。 ○ この場合は、未来の内容は「未来時制」で表現する。
		ask 「尋ねる」	
		doubt 「疑う」	
		see 「調べる」	
		tell 「分かる」	
		wonder 「思う」	
		V	

2.[副詞節] : 「もし~なら」

- ☞:①要するに「If S+V~,S+V...」「S+V~,if S+V...」という形で用いられるif。
②ifに形容詞節はない。

つまり、when の場合は、それを「~(し)たら」「~(の)とき」と訳せる時、if の場合は、それを「もし」と訳せる時、たとえ未来の内容でも節内の動詞は現在時制で代用する(未来完了で表すべきものも現在完了で代用する)と覚えればいいのです。

《演習》以下の()内の動詞の時制を適切なものに変えなさい。

- (1)When he (arrive), I want to say hello to him.
 (2)I don't know when he (arrive) tomorrow.
 (3)If it (rain), I'll be home.
 (4)I doubt if he (come) to our home tomorrow.

- 正解:(1)arrives [彼が到着したら、挨拶したい]
 (2)will arrive [彼が明日のいつ到着するのか知りません]
 (3)rains [もし雨が降れば、家にいます]
 (4)will come [彼が明日我が家に来るかどうかは疑わしい]

《もう一歩深く!!なぜ未来の内容でも現在時制で代用するのか》

まず現在時制が表す意味について確認してみましょう。現在時制とは、一言で言うと

「(変化がなく)安定している」「確定的」

であることを指します。そこで以下の英文を見てください。

I want to say hello to him when he **arrives**.

彼が到着したら、彼に挨拶をしたい

If it **rains**, the game will be called off.

もし雨が降ったら、試合は中止になるだろう

上記の英文において、arrives と rains は未来の内容なのに現在形が使われています。その理由は、when he arrives と If it rains は、それぞれの主節の出来事(「彼に挨拶をする」「試合は中止になる」)が起きる前提であり、話手の中では、ある種の「(揺るぎない)事実」「確定的なこと」としてみなされている(それがあっての「挨拶」であり「試合の中止」だから)ことだからです。

その一方で

I don't know when he **will be** back.

彼がいつ戻ってくるのかわからない

Ask him if he **will come** tomorrow.

彼が明日来るかどうかわか、彼に聞いてみなさい

と、こちらの when節内、if節内では will が用いられるのは、「いつ彼が戻ってくるのか」「彼が明日来るかどうかわか」は、話し手にとって「(揺るぎない確定した)事実」「確定的なこと」ではなく、あくまで予測的内容にすぎないからです。

レクチャー7

完了形。

(1)現在完了。

①現在完了とは。

現在完了とは、その文の主語の過去に行った「動作」や過去の「状態」が、現在の状況に(何らかの形で)影響を及ぼしている、つながりがあることを表します。

言い方を変えれば、(完了形を用いた文で)話題にしている出来事は「過去のこと(完了してしまったこと)」、しかし話し手の焦点(視点)は「(その過去の出来事によって影響を受けている)現在」にあります。

ある過去の「動作・出来事・状態」を現在に心の視点を置いてながめており、必ずそこには「今」が含まれているのです。

(注)過去に始まった「行為(動作)」が現在も継続中である場合には「have+been+~ing」という形を用いる。詳しくは後述。

たとえばこんな2つの英文のニュアンスの違いわかるでしょうか。

① I finished it.

② I have finished it.

①は、単に過去において、「それを終えた」といつているのみ。そこに「今」は存在しません。

つまり過去時制は、現在とは切り離された内容を表すのだ。

ところが②の方は、「(「それを終えた」という過去の出来事によって影響を受けている)今」が含まれており、そこに話者の心の焦点があります。「私はそれを終えてしまった(だから今、もう遊びに行ける、家に帰れる、寝れる…)」といったふうに。

次の英文はどうでしょう。

(ex) They have been married for four years.

彼らが結婚してから4年になる

この英文は、「彼ら」が「4年前に結婚」して、その状態が現在まで継続していることを示しています。

こんな考え方をしてもいいでしょう。have は動詞の場合、「持つ」という意味がありますね。つまり上の英文は「結婚している」という状態を「(現在まで)4年間持っている」、と考えれば分かりやすいですね。

They have been married for four years.

⑤ ⑥

○

このように現在完了の have も、一般動詞の「持っている」という意味の have も、元々の意味は同じなのです。

つまり現在完了とは、現在時制の一種なのである。

なお上の分析図はネイティブの頭の中の発想を図にしたもの。つまりネイテ

ィヴがいちいち have a pen の have は「一般動詞」で、have been の have は「助動詞」と、頭の中で確認しながらものをしゃべっているわけではないわけで、彼らの頭の中で両者の have は同じ感覚でとらえているのだということを図にすればこのようなものになるということ(つまり「"感覚"を"形"に現したもの」であり、文法論的な文型の分析とは異なるので注意)。

では次に、下のように過去時制にした英文との意味の違いはどこなのでしょう。

(ex) They got married four years ago.

過去時制は、当たり前ですがあくまで過去の事象について述べるもの。つまり上の英文では、現在とのつながりが切り離されてしまっています。「4年前に結婚」はしたのわかりますが、今も結婚生活が続いているのかどうかは、この文ではわからないのです。視点はあくまで「過去」にあるのであり、「今」は含まれていないのです。

このように過去時制と現在完了の意味の上での決定的な違いは、「**現在**」という時点を(話者が)意識に含むかどうかなのだとはいえるでしょう。

(ex) They were married for 20 years.

とすれば、20年間結婚していたことと現在との接点が(「現在」に焦点がない)ない(切り離されてしまっている)わけで、彼らは今は離婚してしまっていることとなります。

結論として現在完了とは、「過去の出来事を話題に出しながら、(その過去の出来事によって影響を受けている)現在について語る」ものの言い方であり、話者の意識の中心(焦点)はあくまで「**現在**」にある。

したがって現在完了を使うときには、話題にする「過去の出来事」は常に現在と何らかの密接な関係になくしてはならないということになります。

(ex) (1) I have lost my watch. 私は時計をなくしてしまった

(2) My father has gone to Kumamoto on business.

父は仕事で熊本に行きました

(3) My son has been killed in the accident.

その事故で息子は死んでしまった

(1)は、「時計をなくした」という過去の状態を現在も持っている(つまり今もって見つかっていない状況にある)というところに話者の焦点があります。

I lost my watch. という過去時制の英文では、なくした時計が今見つかっているかどうかはわかりません。あくまで「時計をなくした」という過去のその時点に焦点があります(現在と切り離されてしまっている)。

(2)は、「父は熊本に行ってしまった」という結果が現在でも続いている、つまり今はここにはいない、というところに話者の焦点があります。

(3)は、「息子はその事故で死んでしまい、今現在もなおそのことが私に影響を与えている(ショックが続いている)」ことを暗示しています(そしてそこに話者の焦点がある)。この英文を was killed と過去時制で書けば、「息子死んだこと」が現在の私に影響をさして与えていないことを暗示しうるのです。

②現在完了の意味。

現在完了とは、見方を変えれば「**現在までの"時の幅"**」を表すと見ることもできるでしょう(もちろん話者の心の視点は「**現在**」にある)。

☞つまり「完了=時の幅」と考えてもいいだろう。現在完了は「現在までの時の幅」、即ち現在を最終到着地点(基準点)として、現在までの時の幅(具体的には「結果・完了、経験、継続」)を表すのだ。

1.過去に開始した動作が完了して、現在その結果(としての状態)があることを表す(そしてそれが現在に影響を及ぼしていることに焦点が置かれる) [完了・結果]

☞just(ちょうど)、already(すでに)、yet(もう)等の副詞を伴うことが多いが、それがない場合もある。「動作動詞」の多くは、(alwaysなど、頻度の副詞と共に用いる「経験」を表す場合を除いて)この「完了」「結果」の意味で現在完了で用いられる。

(ex) I've just finished lunch. いま昼飯を食べ終わった

Has it struck seven yet? もう7時を打ちましたか

My father has gone to Kumamoto on business.

父は仕事で熊本へ行きました

☞「熊本に行くという行為が完了している」、ゆえに「父はもうここにはいない」というその結果としての現在の状態を意味している。

2.現在までの経験を表す(つまり過去の出来事を述べながら、今そういった経験を持っていることに焦点が置かれる)。 [経験]

☞ever(かつて)、never(一度も～ない)、before(以前に)やoften等の副詞を伴うことが多い。

(ex) "Have you ever seen a flying saucer?"

空飛ぶ円盤を見たことがあるかい

My mother has rarely had to see a doctor.

母はめったに医者にかかるほどの病気をしたことがありません

3.過去に開始した動作・状態が現在まで継続していることを表す(つまり今もそういった状況にあることに焦点が置かれる) [継続]

④「for+数詞等を伴った期間」、「since+過去の起点(となった日時や出来事等)」のような副詞を伴うことが多い。なお、現在完了の「継続」には、状態動詞が使われる。

(ex) Five years have passed since they got married.

彼らが結婚して五年になる

=They've been married for five years.

He has been playing the piano for three hours.

彼は3時間ずっとピアノを弾いている

④上例は、「ピアノを弾く」という動作(行為)を(休むことなく)3時間ずっと続けている(つまり継続している)、という意味になる。動作動詞を「継続」の意味で用いる場合、必ず「現在完了進行形 (have been+doing~)」にしなければならない。

He has played the piano.

上のように普通の現在完了にしてしまうと、「ピアノを弾く」という動作は、現時点では「完了(つまり終わっている)」ことになる。(しかし話者の視点は「現在」にある)。

先に述べたように、「動作」動詞を普通の現在完了で用いた場合、たいは「完了・結果」となってしまうのである。

④ただし、ある動作がとても長い期間にわたって継続し、しかも今もそれが継続しているときには、しばしば動作動詞でも現在完了で「継続」の意味が表せる。

(ex) I have smoked for thirty years.

上の英文は、「過去30年間にわたってたばこを吸っている(今もたばこを吸う習慣がある)」という意味だが、30年という長きに渡る継続であるために、smokeは動作動詞であるにもかかわらず、「I have been smoking」とはしていない。しかしこれはあくまでも「ある動作がとても長い期間にわたって継続し、しかも今もそれが継続しているとき」という条件が当てはまる場合のみであり、以下のような英文は成り立たない。

(ex) It has rained for three days.

「3日間」では短すぎるのだ。ここは、rainは動作動詞なので「It has been raining」としなければならない。

(2)過去完了(had+p.p. ~)。

①過去完了の意味。

現在完了が、現在を最終到着地点(基準点)として、現在までの「完了・結果」「経験」「継続」を表しましたが、過去完了は、過去のある一時点を最終到着地点(基準点)として、その時までの「完了・結果」「経験」「継続」を表します。現在完了の基準点が「現在」なので、それが「過去の一時点」に移動したものと考えればいいでしょう。

したがって過去完了を用いる場合には、前提としての過去の一時点(基準点)を表す表現が必ず必要になります(それが無いのに過去完了だけの単独の英文というのは非常に不自然な英文ということになる※)。

※例外として、以下のようなものはあり得る。

(ex) I had intended to take part in the race with you.

これは intend、hope といった「願望」「意図」「期待(希望)」「予想」を表す動詞においてのみ起こりうる。つまりそのような動詞は、(単独で)過去完了で使われると、「その願望・期待・希望・予想が実現しなかった(その通りにならなかった)ことを言外に表す」のだ。したがって上記の英文の意味は以下のようなになる。

「ボクはキミとそのレースに参加するつもりだったんだよ(実際には参加できなかったんだが)」

→ I intended to take part in the race with you.

と過去形で書いた場合には、実際に参加したのかしなかったのか、この文では判断できない。

以下が、具体的な過去完了の表す内容ですが、過去完了とは、見方を変えれば「過去の一時点までの"時の幅"」を表すと見ることもできるでしょう(もちろん話者の心の視点は「その過去の一時点」にあり、そこからそれ以前を振り返っている)。

④「完了=時の幅」。ということは、過去完了は「過去(の一時点)までの時の幅」、即ち過去(の一時点)を最終到着地点(基準点)として、そこまでの時の幅(具体的には「結果・完了、経験、継続」)を表すのだ。

1.過去の一時点までの「(動作の)完了」そして「その結果(としてのその時点における状態)」を表す。

(ex) The train had already left before they got to the station.

彼らが駅に着く前に、列車はもう出発してしまった

2.過去の一時点までの「経験」を表す。

(ex) She had had several proposals of marriage before she was thirty.

彼女は30歳になる前にプロポーズを数回されたことがあった

3.過去の一時点までの「(状態)継続」を表す。

(ex) The house had been empty for two years when I rented it.

その家は私が借りたとき、それまでの2年間空き家になっていた

Mark had been waiting for an hour when Mary arrived.

メアリーが到着した時点でマークは1時間待っていた

④動作動詞を「継続」の意味で用いるときは、上例のように過去完了進行形(had been+doing~)にしなければならない。

②大過去

過去完了は上記の意味以外に、過去のある一時点よりも更に昔の動作や出来事を表す場合もあります。これを「大過去」といいます。

(ex) I lost the contact lenses I had bought the day before.

前の日に買ったコンタクトレンズをなくしてしまった

上の例文で「コンタクトレンズをなくした」こと自体が過去の事実で、「買った」のはそれよりも更に昔の事実(大過去)。したがって過去完了(had bought)で書かれているわけです。

このように(現在完了形・未来完了形と異なり)過去完了形だけは2種類の用法がありますが、どちらも「過去のある一時点(基準点)からそれ以前を振り返る形」とい点では共通しています。

(3)未来完了(will+have+p.p.~)

未来完了は、未来のある一時点を最終到着地点(基準点)として、その時までには予想される「完了・結果」「経験」「継続」を表します。

以下が、具体的な未来完了の表す内容ですが、未来完了とは、見方を変えれば「未来の一時点までの"時の幅"」を表すと見ることもできるでしょう(もちろん話者の

心の視点は「その未来の一時点」にある。

④「完了=時の幅」。ということは、未来完了は「未来(の一時点)までの時の幅」、即ち未来(の一時点)を最終到着地点(基準点)として、そこまでの時の幅(具体的には「結果・完了、経験、継続」)を表すのだ。

①未来のある時点までに予想される「(動作の)完了」そして「その結果としての(その時点での)状態」を表す。

(ex) I will have finished my work by the time he appears here.

彼がここに現われる頃までには私は自分の仕事を終えてしまっているだろう

②未来のある時点までに予想される「経験」を表す。

(ex) I'll have been to Tokyo five times if I go there again.

今度東京へ行ったら、5回行ったことになる

③未来のある時点までに予想される「(状態の)継続」を表す。

(ex) We will have been married for three years next month.

私達は来月で結婚して3年になる

Jack will have been studying for six hours in twenty minutes.

あと20分で、ジャックは6時間も勉強し続けていることになる

④動作動詞を「継続」の意味で用いるときは、上例のように未来完了進行形(will have+been+doing~)にしなければならない。

(4)現在完了と共に用いてはならない語句がある。

以下の語句が文中に用いられると、それによって「現在」との接点(つながり)が切れてしまい、話者の視点が「現在」ではなく、「過去のある時点」になってしまいます。したがってこれらは、話者の焦点(視点)が「現在」にある現在完了とは一緒に用いることはできません。

①明確に過去の内容を表わす語句

three years ago「3年前」 when I was a child「子供の頃」 in 1964「1964年に」等
yesterday 「昨日」 last Sunday 「先週の日曜」

(ex) × It has rained yesterday. → ○ It rained yesterday.

②疑問詞のwhen, what time 「いつ」

(ex) × When have you finished it? → ○ When did you finish it?

③just now 「ついさっき」 =just a few minutes ago

※実際にはjust nowは①の範疇に入るのだが、受験で頻出なので、③として別項目にした。

(ex) × John has come home just now. → ○ John came home just now.

⊕ just 「ちょうど」だけ、あるいはnow 「今」だけなら現在完了と共に使える。

⊕ before 「以前に」、once 「かつて」、in the past 「過去に」等は、現在完了と共に使える。

⊕ just now は「ちょうど今」という意味もあるが、その場合は現在時制と共に用いる。

(ex) I can't see anyone just now. 今ちょうど誰にも会えない

また、「すぐに(=soon)」という意味もあるが、その場合は未来形と共に用いることが多い。

(ex) I'll be coming just now. すぐに参ります

(5) 「have been to A」 と 「have gone to A」。

① have been to A

⊕ 「(Aに行って)Uターンしてきた」というイメージ

1. 「(ちょうど今)Aに行ってきたところだ」【完了・結果】

(ex) I have been to the station to see him off.

彼を見送りに駅に行ってきたところだ

cf; I have been in Japan for 3 years.

3年日本に住んでいる

2. 「Aに行ったことがある」【経験】

(ex) I have been to Japan twice. 2度日本に行ったことがある

② have gone to A: 「Aへ行ってしまった」【完了・結果】

⊕ 一直線の矢印のイメージ

(ex) He has gone to America.

彼はアメリカに行ってしまった(つまりもうここにはいない)

⊕ 「行ってしまった(つまりもうここにはいない)」のだからI(私)、つまり話者本人が、この構文の主語になることはない。

(6) 「現在完了進行形(have+been+~ing)」。

「動作動詞」が現在完了において「継続」の意味で使われる場合には、「現在完了進行形(have+been+~ing)」にする必要があります。これは現在までの動作の継続(つまり「過去にははじめた動作が、今もって続けている(継続中である)」という意味)を表します。

(ex) Mr. Brown has been waiting to see you since three o'clock.

ブラウンさんが3時から(あなたに会うために)待ってらっしゃいますよ

⚠ただし下記の例文のように直前にその動作が完了している場合にも用いることはある。

(ex) Somebody has been sleeping in this bed.

誰かが(直前まで)このベッドで寝ていた

ということは、「動作動詞」が未来完了において「継続」の意味で使われれば「未来完了進行形(will have+been+~ing)」になり、過去完了において「継続」の意味で使われれば「過去完了進行形(had+been+~ing)」になるわけです。

(ex) It will have been raining a whole week if it is rainy tomorrow.

もし明日雨なら、丸1週間雨が降り続いたことになる

When he arrived, I had been waiting for three hours.

彼が着いたとき、私は3時間待っていた

レクチャー8

「父が死んで3年になります」型の書き換え。

「父が死んで3年になります」という表現は以下の3種類の書き換えができます。このタイプの書き換え問題は頻出ですから、しっかりおさえておきましょう。

My father died three years ago.

=My father has been dead for three years.

x has died

☞dieは「死ぬ」という、瞬間の動作を表す動詞なので「時の幅」を表す完了形と一緒に用いることはできない。

のでしかしbe deadは「死んでいる」という「状態」を表す「3年間死んでいる状態だ」と考えれば完了形と使える。

=It is[has been] three years since my father died.

=Three years have passed since my father died.

レクチャー9

過去形にすべきか、過去完了形にすべきかについての注意事項。

以下の問題ですが、正解は①と②のどちらでしょうか？

Q. I () my cellphone, but found in my bag later.

①lost

②had lost

正解は①なのです。

「え～っ、携帯を無くしたことの方が、見つけた(found)ことよりも時間的に前(古い・昔)のだから、過去完了形を使うんじゃないの(o>ω<o)?」

と思うかもしれませんが、過去完了形というのは、あくまで「ある過去の一時点(基準点)からそれ以前を振り返る形」なのです。上の英文は別に「見つかった」時点から、「無くした」ことを振り返って見ているわけでもなく、単に時系列(事が起きた順)に従って出来事を述べているにすぎません。このような場合には、過去完了形は用いず、単に過去形で表現すればいいのです。同じような例を以下に挙げてみましょう。

(ex) I left[×had left] work at 7, went[×had gone] to market to buy groceries and then came home about 9.

私は7時に仕事を終えて、マーケットに食料品を買いに行き、そして9時頃帰宅しました

それから before や after 等が用いられ、時間の前後関係が明瞭な場合には、過去形、過去完了形、どちらを用いてもかまわないというルールもあります。

(ex) I came back five days soon after he left[had left] Tokyo.

彼が東京をたつてすぐ私は帰ってきた

(ex) He came[had come] home before dinner started.

夕食は始まる前に彼は帰宅した

レクチャー10

時制に関するその他の重要関連項目。

(1)時制の一致とその例外。

①時制の一致とは

「時制の一致」というのは、主節(接続詞等のついていない「S+V」のこと)の動詞が過去時制になると、従属節(例えばthat節などの、接続詞のついている方のS+V)の時制も、それに合わせて時制を過去に向かって1つずらすことを言います。

(ex) I think that he is kind. ⇨ I thought that he was kind.
過去時制になると

②「時制の一致」の例外

1.常に現在時制を使わなければならない場合がある。

i 不変の真理を表わすとき

(ex) We were taught at school that the earth moves around the sun.
[×moved]

学校で、地球は太陽の周りを回っていると習った

ii 社会通念・習慣的・反復的な動作・職業等

(ex) My grandfather would often say that time is money.
[×was]

祖父はよく時は金なりと言ったものだ

要するに「現在もそれが成り立つ」という話し手の意識(気持ち)がある場合、「現在時制」を用い、時制の一致をかけないのです。たとえば以下のような英文があります。

(ex) Jane said that Jack will leave Nagoya on the 23th.

これは、この文が述べられたのが 20日だったとすれば、ジャックが名古屋

屋を発つのは未来の出来事、その時点(の現在)において成り立っているわけで、正しい表現になるのです。「不変の真理」「社会通念」といったものも、現在においてもそれが成り立つ、という意識が働くがゆえに現在時制を使うのです。

このように時制というのは「時間」とは違って客観的・物理的な概念ではありません。あくまで伝えようとしている事柄を、時間の流れの中で話者がどこに位置づけるのか(「現在」よりも前なのか、後なのか)の問題になるのです。つまり、その位置づけは客観的・物理的に決まるのではなく、話者の意識(気持ち)によって選択されるものなのです。

2.歴史的な事実は常に過去形にする。

(ex) Did you know that French revolution broke out in 1789?

[×had broken out]

フランス革命は1789年に起きたって知ってましたか

上の英文で、「フランス革命が起きたのは、youが『知っていた』時点より昔のことなのだから had broken out になるのでは」などと考えるはいけません。世界史の教科書に載るような歴史的な事実は常に過去形で表現するのです。

(2)時に関する重要構文。

① S+had not+p.p.～ before[when] S+V(過去)…。 「～しないうちに…した」

(ex) I had not waited long before he came along.

そんなに待たないうちに彼がやってきた

I had not gone very far before it began to rain.

そんなに遠くに行かないうちに雨が降りだした

② It will not be long before S+V…。 「まもなく…するだろう」

(ex) It won't be long before he can speak English. won't=will not

=It won't be a long time before he can speak English.

=He can speak English soon[before long].

すぐに彼は英語を話せるようになるだろう

③ It was not long before S+V…。 「まもなく…した」

(ex) It was not long before I realized the trick.
=It was not a long time before I realized the trick.
=I realized the trick soon[before long].
まもなく私はその計略に気付いた

④It is[was] not until~that S+V…。「~してはじめて…する[した]」
=not until~ + 疑問文の語順。☞It is[was]とthat が省略されると後半の主節は疑問文と同じ語順になる。

(ex) It is not until we lose our health that we realize its value.
=Not until we lose our health do we realize its value.
健康を失って初めて我々はその価値に気付く

⑤every time S+V~, 「~するたびに」 =each time S+V~
「~するときはいつも」 =whenever S+V~

(ex) Every[Each] time a man came in, another went out.
1人が入ってくるたびに、別の1人が出ていった
Every time I call on you, you're out. いつ訪ねてもあなたは留守だ
=Whenever I call on you, you're out.

⑥any time S+V~, 「~するときはいつも」 =whenever S+V~

(ex) Any time she couldn't have her own way, she got angry.
彼女は思い通りにならないときはいつでも腹を立てた

⑦the first[next, last] time S+V~, 「はじめて[次に、最後に]~する時に」

(ex) The first time I visited the town, I met my wife.
はじめてその街を訪れた時、私は妻と出会ったのだ

⑧by the time S+V~, 「~する頃までには」

(ex) I will have a house of my own by the time I'm fifty.
私が50歳になるまでには自分の家がもてるだろう

☞同じ「~までには」でも by は前置詞なので、直後には「名詞(の仲間)」がくる。

(ex) The work will be finished by 8 o'clock.

【名詞】

仕事は8時までには終わるだろう